

夢（時空を越えて）



夕張市医師会
築詰医院

築 詰 彰 彦

現身うつせみに次元狭間のクライシス
我が靈魂れいこんは奈辺なへんにをわす

我々は時々夢を見ます。高いところから落下しそうで、はっと目を覚ます。全身打撲前に目醒める。夢から目覚めさせるのは何なのか。

これが、潜在的自己なのです。

いざという時の危機に介入して来る。

登山をしていて、目の前に大きな岩が落ちてくる。心の中で危ないと声がする。ハットして立ち止まる。目の前を、ゴロゴロと岩石が崩れ落ちる。ハット気付かせて一瞬止まらせる。これも、大いなる自己意識なのです。

夢の中で死者に会う。実は我々は夢の中で、臨死体験（靈魂が肉体から離れて、アストラル界サイキック界で浮遊すること）をしているのです。

さて現実には、朝起きてルーチン作業（日常所作）をして、仕事をし、人に会ってほぼ一日終了。テレビでも観て一杯飲んで寝ます。でも、これも演技なのです。我々は日常を演じているだけなのです。

海を思い浮かべてみてください。大海原から波となって打ち上げられるひと雲を思ってください。砂浜に打ち上げられ、海から離れます。一瞬分離したかと思うが、また波が来て合体します。そして大海に戻ります。自己と他者は魂の実在ではないのです。大きなたいまつに一つの小さなローソクを合体させます。両者とも炎を持っています。ローソクを離すと、小さく灯っています。合体させて分からなくなっても、火は灯っています。たいまつを太陽・一つの小さいローソクを自己とと思ってよいです。分離はありません（ワックスの証明）。潜在する自己が実在なのです。この世（現身）の人格と永遠の自己（人格）。今現実とと思っているのは、大げさに言えば、錯覚なのです。限界のある肉体をまとして、演技しているだけなのです。永遠の自己は不滅です。肉体から次元上昇し、サイキック界（4次元）・ノエティック界（5次元）へ移行する途中なのです。

我々は精神世界スピリチュアルワールドを知らなさすぎです。

昔分裂症・今統合失調症もそうです。昔痴呆症・今認知症、用語を変えても何も前へ進まないのです。認知症は、ある意味ではこの世からあの世への移行離脱の前段階、いわば浮世を忘れるための心の準備なのかもしれません。

さて、現実をもっと気楽に考えましょう。我々は死なないのです。消滅しません。死はさなぎから蝶

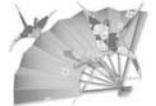
になるだけです。そして、華麗に舞い続けるのです。

さて、そろそろ駄文もおしまいです。支離滅裂・雑多になりましたが、お許しください。

これからは、テークイットイージー（気楽にやろうぜ）で行きましょう。

では、グッドラック（幸運を）。

干し柿



帯広市医師会
進藤医院

進 藤 恒 彦

埼玉の親戚から今年もダンボールいっぱいの柿が届いた。もう40年くらい毎年送られてくるありがたい贈り物である。北海道で獲れないのは柿だけではなく蜜柑も同様であるが、蜜柑そのものが40年間変わらないのに比べ、柿はずいぶん変わってしまった。

40年前は渋柿を甘くした砲弾型の樽柿だったが、そのうち庭の木にできるような甘柿になり、さらに最近は立派な富有柿になっている。また、昔は流通経路が発達していなく1週間以上かかるため、生柿は途中で痛むので送れなかったらしい。

子どものころ、徳島県の田舎に住んでいたことがあり、秋になると渋柿をいっぱい縄に吊るして干し柿を作っていた。子どもは乾くのが待てず、渋が抜けると取って食べるので、干し柿ができるまでに半分になってしまう。始めから甘柿を作ればいいのに、わざわざ渋柿を干し柿にするのは、干し柿にすると甘柿より渋柿の方が甘くおいしくなるかららしい。それに昔の言葉に「柿の実は、上の枝は鳥のため、下の枝は旅人のため、中の枝は自分たちで」という言葉がある。自分たちには渋柿の方が良かったのかも。

お正月の鏡餅は上に橙「だいだい（代々）」を乗せ、下に昆布「よるこぶ」を敷き、干し柿や勝ち栗を飾るのだけれど、それぞれ意味がある中、干し柿はめでたいのかどうか？ ただ「長持ち」だとは思いうし、食べ物の少なかった時代、正月の食べ物として甘く美味しかったのだろう。

今の時代、干し柿を知らない人も居るのかも。